



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2018年8月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



厳しい残暑が続きます。園児さん、職員さん共に体調管理に十分にご留意下さい。

写真は、滋賀県「崇徳保育園」に隣接する「お旅所（オタビシヨ）」のご神木です。

台風20号の風で倒れてしまいました。日頃、園児が親しんでいた木ですので別れがたい様子です。

木は倒れても、大切なことを子どもたちに伝えてくれた様です。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動「10周年企画」のご案内
2. J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート
3. 事務局からのお知らせ

どんぐり博士の「育苗日記」(2018年8月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動「10周年企画」のご案内

1) 自然・環境体験プログラム集トライアル活動進行中

JP子どもの森づくり運動10周年記念企画として、飯田女子短期大学 幼児教育学科 田中住幸准教授の監修で本当に保育の現場で役立つ「自然・環境体験プログラム集」の作成に取り組んでいます。プログラムが『本当に役立つ』ものとなることを実現するためには、机上で作られた既存のものではなく、実践の現場で検証されたものでなくてはなりません。そのために、事務局ではいくつかの保育園、幼稚園、こども園にお願いし、プログラム集に取り入れる予定のアクティビティのトライアル（予行）活動をお願いしております。そこで試みられた活動風景をもとにプログラム集は作成されますが、その際いただきました職員さんからのご意見を反映して、より実践的なものに仕上げたいと思います。まだ、スケジュール途中ですが、トライアル活動の活動風景をお送りします。このプログラム集は、今年度末を目標に作成し、皆様のお手元にお送りできる予定です。

園名（開催日）	内容	活動風景	
三重県 「高岡ほろりん保育園」 (2018年6月15日)	園庭での アクティビティ		
福井県 「大野幼稚園」 (2018年8月25日)	森での アクティビティ		
滋賀県 「崇徳保育園」 (2018年8月27日)	樹木を体感する アクティビティ		

2) 「10周年企画」参加園第二次募集：「どんぐり同窓会」のご案内

「10周年記念企画」の2018年度参加園募集のご案内として、先月号の「ぼくの木、わたしの木」に続き、今月号では「どんぐり同窓会」の開催をご提案させていただきます。“木の成長は、子どもの成長”です。卒園児と在園児の子どもたちと一緒に、植えられた“どんぐり”の苗木を見に行くことで、子どもの成長を確認しようという活動です。卒園児と在園児の異年齢交流の機会としても活用いただけます。“木を植えて子どもの心を育む”ことを目指すJP子どもの森づくり運動の10周年記念にふさわしい活動と思われま。別紙のチラシをご参照いただき、是非、ご参加いただけます様ご案内申し上げます。



札幌市「三和新琴似保育園」開催風景

2. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート（*詳細はホームページをご覧ください。）

●広島県「保育所みのり祇園」東北の“どんぐり”の苗木を見送る会

・日時：2018年5月14日（月）・場所：自園ホール ・日本郵政グループ参加者：安佐南郵便局 夢野局長さん
 遠く離れた地で育つ子どもたち… 実際には会うことも話すこともできないけれど、子どもたちの間には、「共に生きる（共生）」という、大きな繋がりが育まれています。子どもたちの手のひらにすっぽりかくれる小さなどんぐりが、東北の復興の歩みとともに子どもたちの心を豊かにしてくれることは、きっと未来につながっていきます。「どんぐりのバトンタッチ！」東北のおともだち・・・宜しくお願いします。（園レポートより）



●東京都「新宿せいがこども園」東北の“どんぐり”の苗木を見送る会

・日時：2018年5月16日（水）・場所：自園 ・日本郵政グループ参加者：落合郵便局 上条局長さん
 藤森園長先生からのお話を聞いてから、落合郵便局の上条局長さんと一緒にみんなで育てた苗木を段ボール箱に納めます。「ぼく、やりた〜い！」と、たくさんの声が上がリ、代表者3人が選ばれて箱詰めしました。無事に箱詰めも終わり、郵便局の配達員さんが東北へ運んでいただけるように、園児たちの思いと一緒に局長さんへお渡ししました。



3. 事務局からのお知らせ：締切りが迫っているご案内二件です。

1) 「富良野自然塾ツアー」参加者募集のお知らせ

J P子どもの森づくり運動10周年記念事業として、当運動の協力団体であるNPO法人C・C・C 富良野自然塾さんが提供する環境教育プログラムを体験するツアーを開催します。塾長の倉本聡先生の講話も予定しております。（*注）募集人数が限られております。早めの応募をおすすめします。

- ・日程：2018年10月9日(火)～10日(水)
- ・会場：北海道富良野市下御料「富良野自然塾」
- ・募集人数：20名（先着順）
- ・参加申し込み方法：[ホームページにて案内中](#)

*注：倉本先生のご講話は、先生のご体調によって直前にキャンセルになる場合もあります。あらかじめご了承ください。



地球の道



植樹体験

2) 「ぼくの木、わたしの木」

J P子どもの森づくり運動10周年企画の内、子どもたちに生物多様性を体感してもらう『ぼくの木、わたしの木を知ろう！』の第二次募集の締め切りが迫ってまいりました。本企画では、筑波大学 生命環境系 津村教授の協力を得て、“どんぐり”の母樹のルーツを遺伝子レベルで調査する活動に取り組みます。子どもたちがいつも親しんでいる森の木のルーツ知ることは生物多様性学習においてとても重要なことです。調査方法は、目的の樹木の葉っぱを2、3枚採取して専用の袋（お申込みいただいた園に、事務局より個別にお送りします。）に入れてお送りいただいただけでとても簡単です。**10周年のこの機会でないとは実現できない調査活動です。**まだお申し込みいただいていない参加園さんには是非、ご参加いただける様ご案内申し上げます。

*締め切りは、9月末厳守（検査物到着日）とさせていただきます。以降にお送りいただいても対応しかねますのでご了承下さい。

●どんぐり博士の育苗日記(2018年7月号) ～史上最も暑い夏でした～

気象庁からの発表（速報）によると、今夏は観測史上最も暑かったようです。北日本の一部地域の方を除き、誰もが感じていたことと思いますが、やっぱりそうだったのねとダメ押しされた感じですね。子森ネット「どんぐり博士」：河内和男（森林インストラクター）



今夏の暑さの経験で、最高気温が30℃や31℃くらいだと、しのぎやすいと感じるようになっていませんか。エアコンなどに守られている我々ヒトの感覚は、いい加減なものだと気づかされますし、同時に移動できる動物の順応力の高さに感心します。

では、植物たちはどうでしょうか。特にプランターやポットに植えられている植物は最悪です。土が少ないため、水分量・温度等が天気状況により激変します。つまりエアコンが無い中で植物は耐えるだけになります。結果活動をやめ葉を落として、最悪枯れてしまいます。今年のような酷暑は子森の活動にとり試練ですね。

次に、都市部の最低気温の高さも気になります。西日本の主要都市の最低気温が、27℃～29℃の予報を数多く見ました。これは、熱帯モンスーン気候の都市に匹敵します。日本を覆う大気の暑さに、都市部のヒートアイランド現象がプラスされた結果と思われる。

今こそ都市を冷やす自然のエアコンである森の重要性を高く認識するべきです。その良い例を気象庁がお膝元で示しています。東京の気象観測点は平成26年12月から皇居の北側の北丸公園内に移動しました。周囲に森がある地帯です。その移設以来、東京の夏の気温がニュースで取り上げられることが少なくなりました。決して東京が涼しくなったわけではありませんが、大都会の中で森が気温の安定化に貢献していることを証明しています。